



報告書

官民データ流通促進基盤の利活用促進に向けた調査研究業務

20230228

TIS株式会社

DXビジネスユニット

DX企画ユニット DXR&D部

I) 業務名および背景・目的

【業務名】

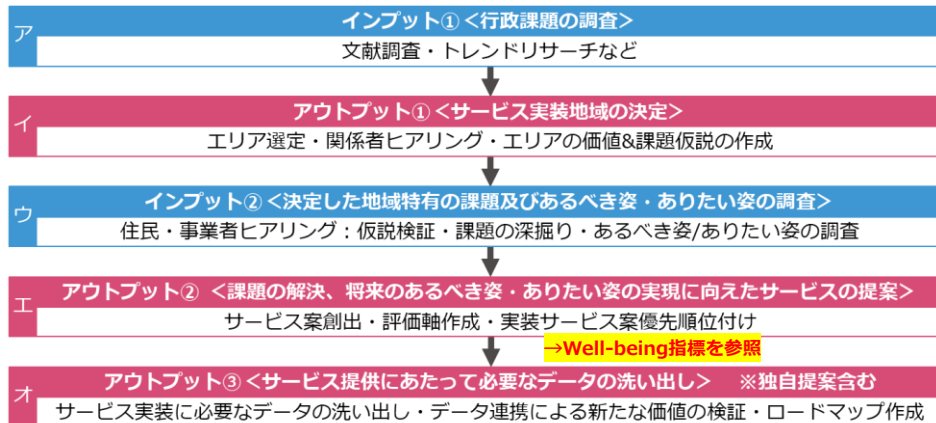
官民データ流通促進基盤の利活用促進に向けた調査研究業務(以下、本事業) (<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/keiyaku/datamarket.html>)
 <公募スケジュール 告示：9/29、申請締切：10/11 採択結果：10/17週>

【業務の背景・目的】

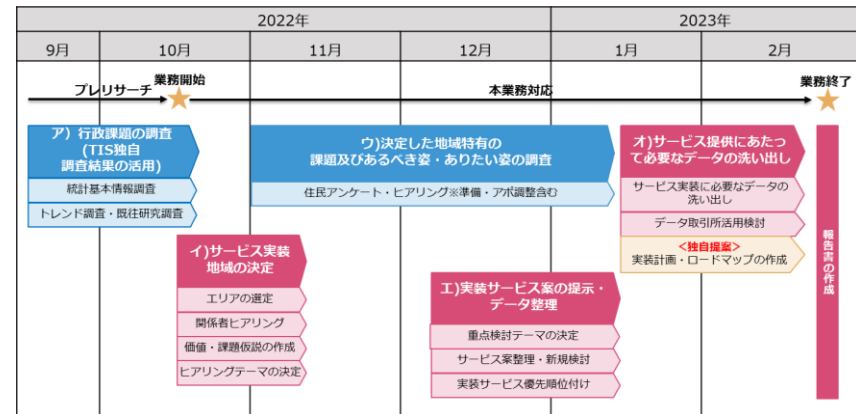
札幌市は民間データを有償で取引することが可能な官民データ流通促進基盤（データ取引市場）を令和4年度に構築を予定している。「データ取引市場」が多様な官民データの集積地となり、データを活用した民間サービス等が多数創出されることによって、行政課題の解決や市民生活の利便性の向上、経済活性化に繋がる未来を目指し、その第一歩として、データ取引市場を活用した民間サービスの実装に向けた調査研究を行うことを目的とする。

【本業務内容の進め方案 ※企画提案時点】

仕様書 (<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/keiyaku/documents/teiansetsumeisho.pdf>) の業務内容を基に実施フロー・スケジュールを整理



→札幌市のオープンデータ、データ取引市場の活用を検討



II) 実施項目について

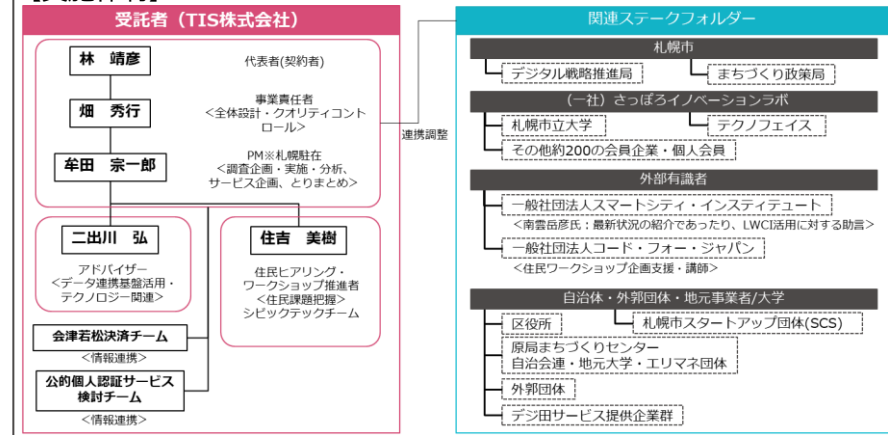
本報告書では下記実施項目の内容についてまとめた。

【実施項目】

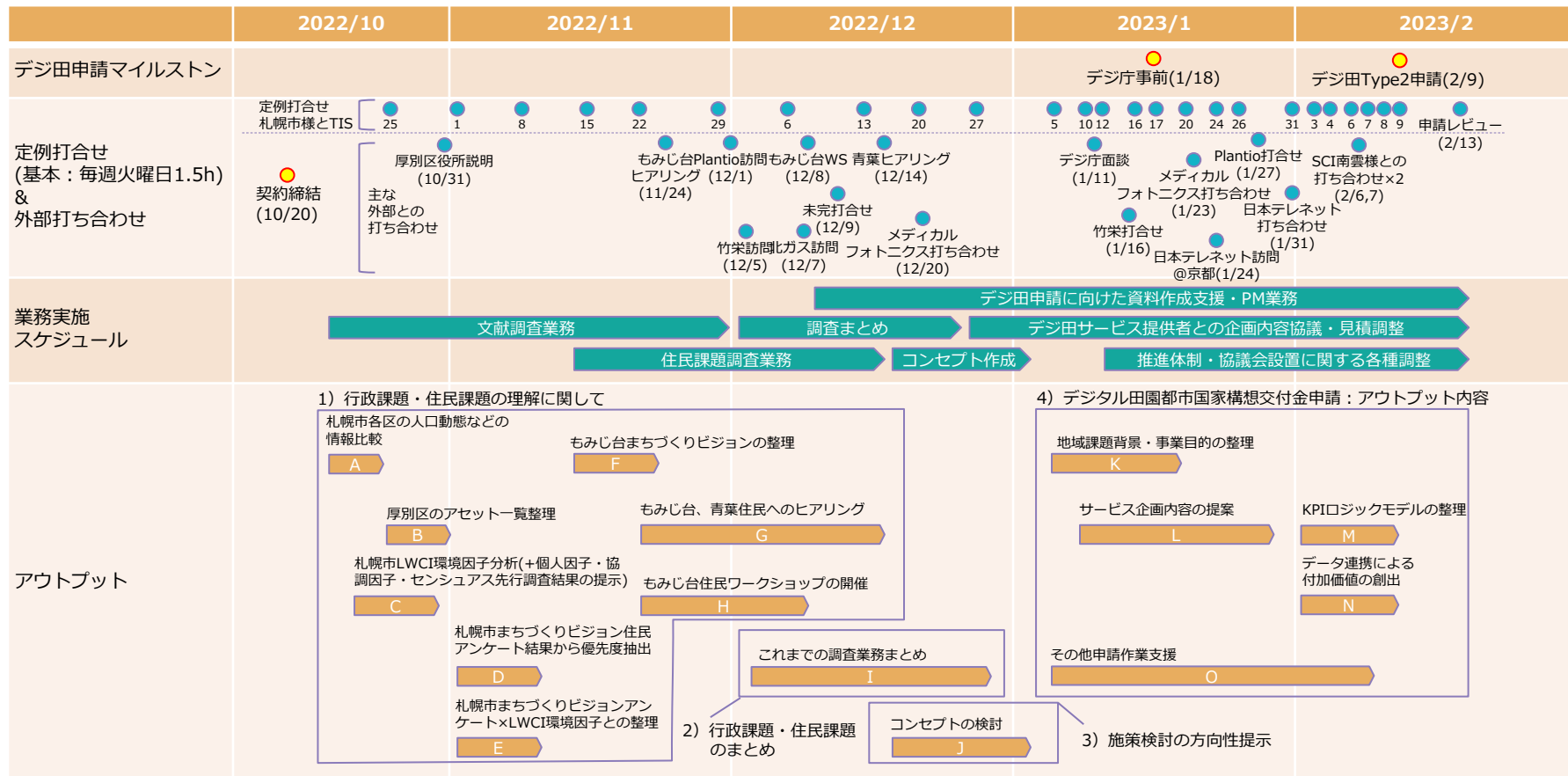
本事業で実施した実施項目は以下の通り。

- 札幌市各区の人口動態などの基本情報比較
- 厚別区のアセット一覧整理
- 札幌市LWCI環境因子分析
(+個人因子・協調因子・センシユアス先行調査結果の提示)
- 札幌市まちづくりビジョン住民アンケートの優先度抽出
- 札幌市まちづくりビジョンアンケート×LWCI環境因子との整理
- もみじ台まちづくりビジョンの整理
- もみじ台、青葉住民へのヒアリング
- もみじ台住民ワークショップの開催
- 課題のまとめ
- 施策検討の方向性提示
- デジタル田園都市国家構想交付金申請支援（申請資料の作成支援）

【実施体制】



Ⅲ) 実施スケジュール



V) 調査結果内容

1. 行政課題・住民課題の理解に関して

- > 実施内容：札幌市統計情報の整理やLWCI先行調査の分析、住民ワークショップの実施など、札幌市における住民課題調査を実施
- > 実施結果：札幌市厚別区もみじ台、青葉における住民の課題を理解した

<LWCIの先行調査結果の分析の一例>

<身体的健康> ※各項目で札幌市の特徴となるようなポイントについては赤字で表現した

LWCI因子 カテゴリー	考察（カッコ内の数字は対応する偏差値）
医療・健康	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【医療体制】医療施設の徒歩圏カバー率は高く(57.0)、住民も病院や診療所が多いと感じている(62.6)。しかし徒歩圏平均人口密度は高い(47.2)傾向にあるため、改善が必要。 ■ 【市民の健康】男性の健康寿命は平均より低い(48.6)、特定健診実施率が低い(26.0)ことから、日々の健康チェックが不十分であることが考えられる。特に一人当たりの後期高齢者医療費が高い(22.6)ことから、特に高齢者の健康に関する施策について拡充が必要であると考えられる
介護・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【福祉施設の充実】福祉施設の徒歩圏人口カバー率は高い(55.5)が徒歩圏平均人口密度が高く(46.1)なっている。住民からは福祉サービスを受けやすい(56.6)と感じており、現状大きな問題は発生していないと考えられるが、近い将来の人口構成を鑑みると、特に高齢者福祉施設の充実及び、施設オペレーションの効率化などの施策検討が必要
買物・飲食	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【商業施設の充実】商業施設の徒歩圏人口カバー率は高い(57.9)が、徒歩圏平均人口密度が高い(46.3)が、住民からは繁華街へのアクセスが良い(66.5)や日常生活に必要な買い物に困っていない(61.8)という状況
住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1住宅当たりの延べ面積は平均より狭い(43.4)、平均住宅価格は安い(52.6)状況。家賃/宅地の土地代について住民は平均的だと感じている(49.4)。一戸建ての持ち家の割合は平均よりも低く(38.7)、集合住宅による居住の割合が高いことが考えられる。
移動・交通	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【公共交通・道路インフラ】客観的指標では、駅/バス停の徒歩圏人口カバー率は高い(60.5)が、人口密度が高い(47.0)ため、混雑が予想される。通勤通学で自動車/バイクを利用する人が少なく(54.0)公共交通機関を使用する人が多い。住民の主観的指標からは公共交通の充実(65.8)、幹線道路の整備(62.3)が高いことから、満足度は高いと予想される ■ 【職住近接】客観的指標では職場までの平均通勤時間も全国平均より多少少ない(53.7)ことがわかる。また、住民の主観的指標からは職住近接ができるとの回答が多く(58.9)、コンパクトシティの特徴を有する
空気・騒音・清潔さ	<ul style="list-style-type: none"> ■ NOxの年平均値が全国平均よりも高い(46.0)が、PM2.5の年平均値は低い(61.4)ため、大気環境の評価が難しく、計測・分析を継続する必要がある。住民は町がうるさいと感じている(44.9)
事故・犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ■ 客観的指標では空家率(53.4)・人口当たり刑法認知件数(51.7)・交通事故件数(55.3)で全国平均よりも良い結果となっているが、住民の主観的には治安が良いと回答したのは全国平均よりも低い(48.2)
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ■ 客観的・主観的共に自然災害・防災対策に関して全国平均よりも高い結果となっている
環境共生	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民主観では札幌での生活は気候に対するマイナス評価が多い(43.1)。特に冬季の積雪・低温が住民生活の質を下けていると考えられる。客観的指標からは環境配慮に対する取り組み意欲があることがわかる。
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国平均より高く(56.3)、自然と共生した生活を送れる機会が提供されている。

この他に「札幌市住民アンケートの分析」や「もみじ台まちづくりビジョンの整理」など、デジ田企画の基本材料となる資料の作成した。

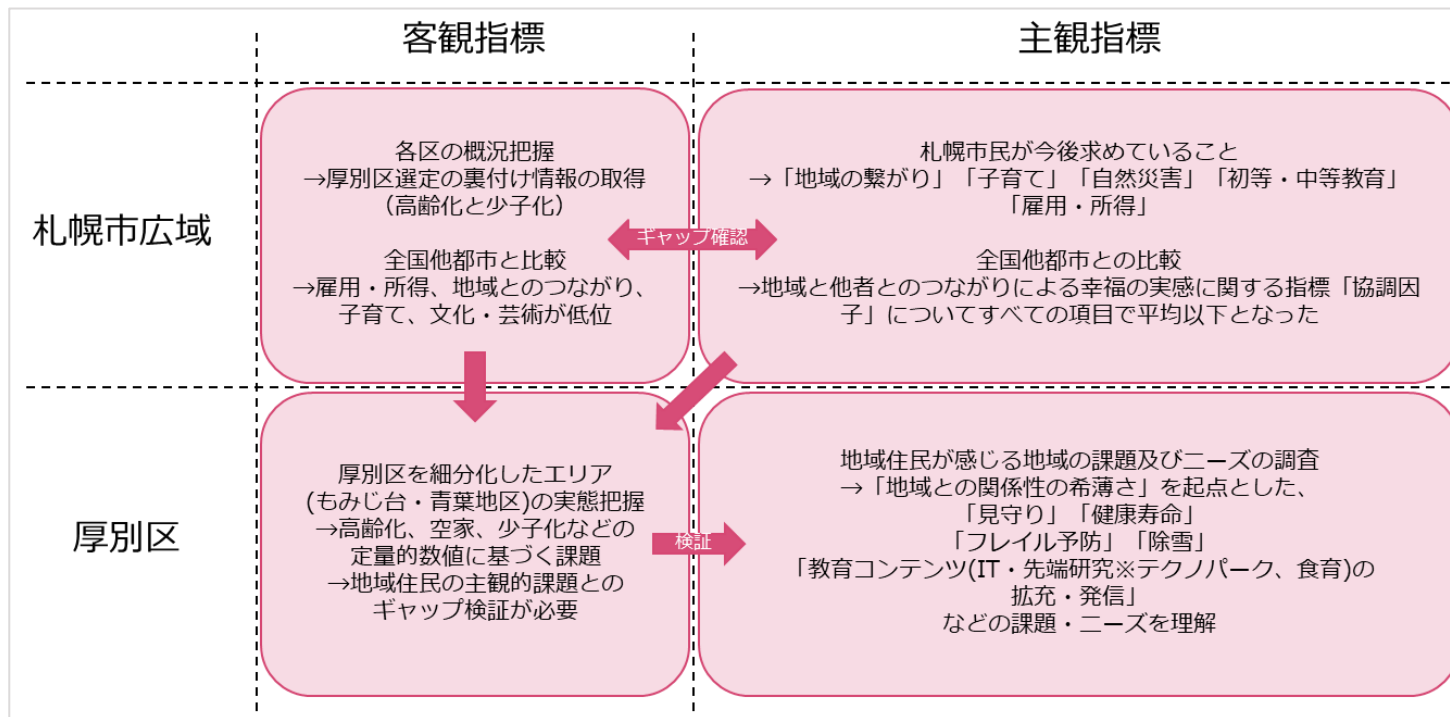
V) 調査結果内容

2. 行政課題・住民課題のまとめ

>実施内容：これまでの調査結果をまとめ、地域課題の整理を実施

>実施結果：厚別区もみじ台・青葉の課題を選定：本整理をデジ田申請書に盛り込む

<これまでの調査を踏まえた、地域課題の整理>

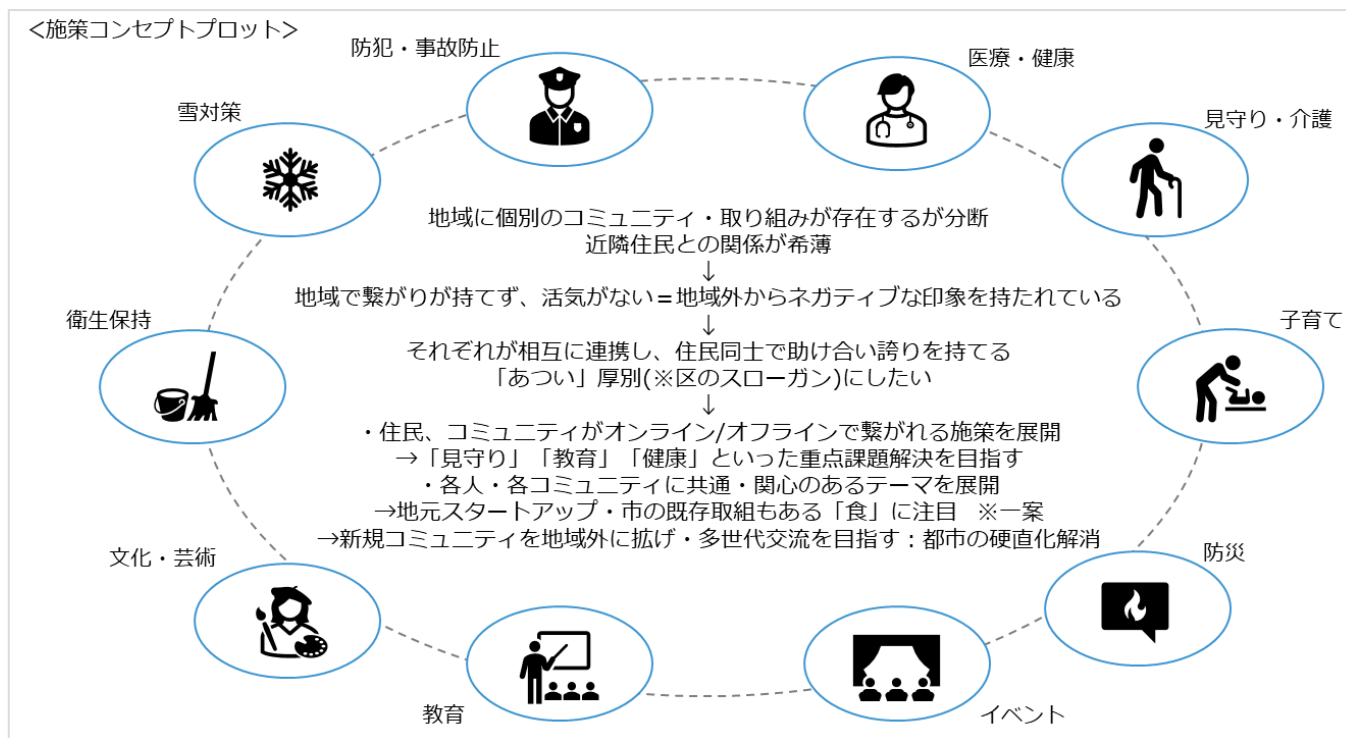


V) 調査結果内容

3. 施策検討の方向性提示

- > 実施内容：これまでの調査結果・課題整理から地域に実装するサービスの方向性を検討
- > 実施結果：地域実装サービスの原案となるコンセプト案を作成

<地域に実装するサービスのコンセプト整理>



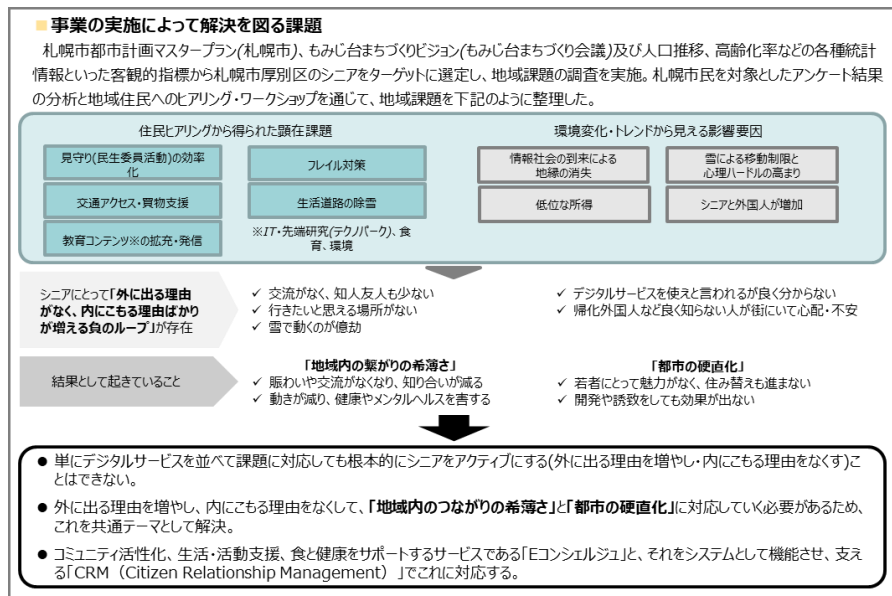
V) 調査結果内容

4. デジタル田園都市国家構想交付金申請書作成支援

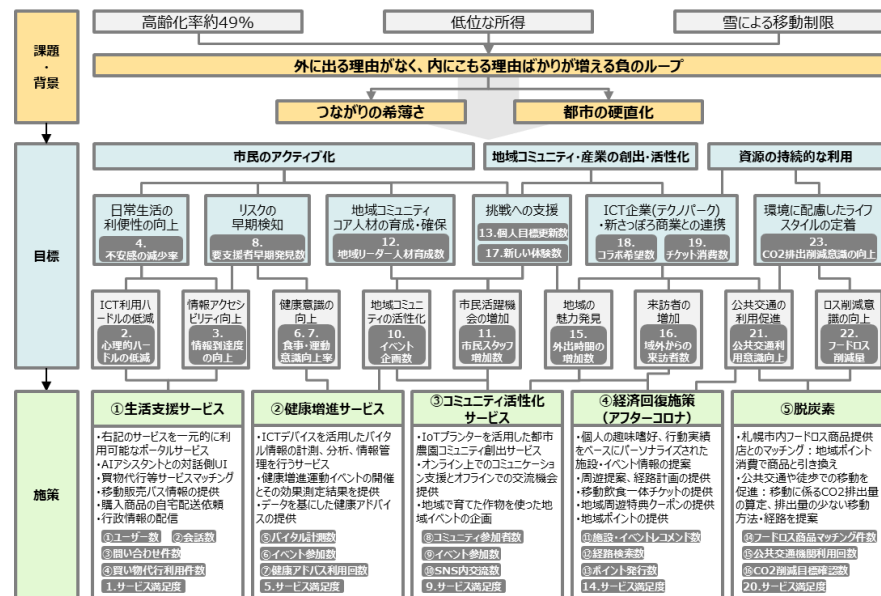
> 実施内容：デジ田申請書作成に係るPM業務および、申請書作成支援を実施（下記アウトプットの一例）

> 実施結果：デジ田Type2申請(2023年2月9日〆切)を実施

<地域課題の整理案>



<KPIロジックツリー整理案>



この他に、「実現したい地域像」や「サービス企画案」、「全体システム概要図」、「データ連携による付加価値創出」など、デジ田申請のQ&Aとなる部分の作成を支援した。